



## 白根 武史

一般社団法人東北経済連合会 副会長

### 東北の永続的な発展に向けて

人口減少・少子高齢化が進行する東北において、この問題に正面から向き合っていくことは私たち東北の企業人としての責務であると考えます。東北が将来にわたって永続的に発展し続けるためには、働く場を増やし、人を呼び込んでいくこと。そして人々が安心して働け、家族とともに生活できる環境をつくっていくことが大事だと思います。

製造業においては、安価な労働力を求めて海外への拠点進出が続いてきたものの、最近では現地の労務費レートの上昇や不安定な政治・経済情勢に対して、安定した環境で、質の高い労働力が得られる日本が、グローバル生産拠点としての一大候補となる機運が高まっています。そしてこの日本の中で東北のアドバンテージを明確にし、かつ優位性に磨きをかけ、情報発信していくことで東北の産業振興を促進できるのではないかと思います。当社は今年7月に設立から5年を迎えました。この間、本業であるクルマづくりや地場のものづくりを中心とした異業種の皆さんとの交流を通じて、東北には伝統工芸で培われたものづくりの風土があり、固有の優れた技術を有している企業がたくさんあるということ。そして粘り強く、本質をつかみ取る洞察力に優れ、地道に物事に取り組む東北の人たちの気質等が東北のアドバンテージであると感じています。このような潜在的な魅力に加えて、東北進出の具体的なメリットとして、例えばアクセスのよい事業用地の取得がしやすいだとか、優秀な人材がたくさん採用できるなど、総合的に見て経営コストがリーズナブルで、他地域よりも高い競争力を獲得できるということは企業にとっては大きな魅力であります。

東北における自動車産業について申し上げますと、5年前新たに部品を供給していただける地場企業を募りましたが、東北は自動車関連の部品製造の仕入先の集積度が低く、自動車部品の製造への経験がないため、ほとんど手が挙がりませんでした。そこで、中部地区を中心とした自動車メーカーと長年取引がある部品サプライヤーに対して、東北への拠点進出と同時に地場企業との連携や協力をお願いしました。部品一点一点についてチャレンジしてくださる地場企業を探し、参入に向け技術面等の課題と一緒に取り組んできた結果、徐々に成果も出てきております。

また、進出された部品サプライヤーの方に東北の印象についてお話をお聞きますと、東北は自然環境に恵まれ、食べ物もおいしく、とても住みやすいという声をよく聞きます。しかし一方で、他地域より移住してきた若い社員が子育てをしながら働き続けることが難しく、会社を辞めてしまうというケースもあるようです。もともと東北は三世同居率が高く、地元の方にとっては仕事と子育ての両立がしやすい環境ではありますが、他地域から移住されてきた東北に縁もゆかりもない社員にとってはそれが中々難しいわけです。人口を増やし、東北の未来を担う次世代につないでいくためには仕事も子育てもしやすいという環境整備はとても重要なことであろうと思います。

こうした環境整備に企業単独でやれることには限りがありますが、行政のご支援をいただきながら地域全体で協力して取り組んで行くことがこれからとても重要ではないかと思います。

(トヨタ自動車東日本株式会社 取締役社長・しらね たけし)